第３回環境被害に関する国際フォーラム

セッション１　被害の現状報告

加湿器殺菌剤生存者の証言

チョ スンミ*
加湿器殺菌剤被害者

韓国では必需品の加湿器と普通に使用された殺菌剤

こんにちは。私は韓国から来た加湿器殺菌剤の被害者であるチョ スンミです。

まず加湿器殺菌剤と言ってもよく分からないと思いますので、それについて説明致します。加湿器は、水を蒸気にして、室内の湿度を調整するための物で、韓国の多くの家庭で使っています。特に親たちは加湿器を子供のそばや、患者のそばに置いて使います。そして、加湿器の水のタンクに殺菌剤を入れて使用します（図１）。

加湿器殺菌剤として、こういう製品が韓国で販売されていました。加湿器の水のタンクにカビが発生することがあります。それを殺菌して、きれいにした状態で使うために殺菌剤を使用しました。

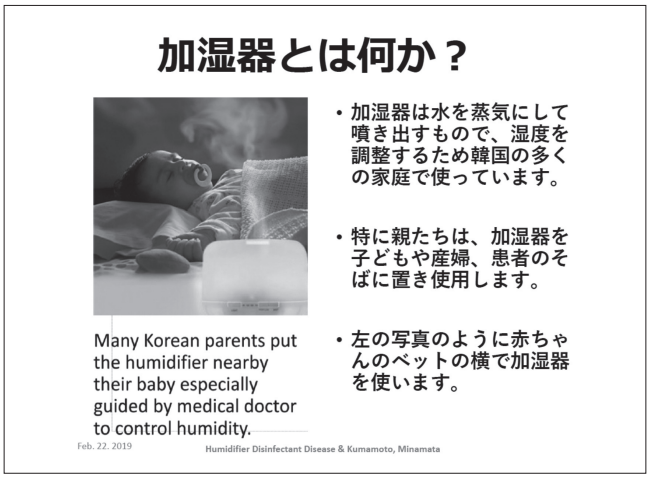

図１　韓国で使われる加湿器の説明

代表的な加湿器殺菌剤は、イギリスのレキットベンキーザー、そしてテスコ、韓国のSKLG、サムスン等の化学メーカーが販売し、安全テストが行われないまま1994年から2011

*オキシ・レキットベンキーザー製品使用、酸素発生機使用、重症ぜんそく患者、被害救済特別法の被害認定者。

年まで18年間使用され、9,900万個が販売されました。これらは韓国で販売された製品の写真です。そして加湿器殺菌剤を人が吸入し、重い肺損傷という悪影響を及ぼします。この絵は加湿器殺菌剤の使用によって人体に現れる疾病の種類を点で表したものです。

加湿器殺菌剤を使用した私の経験

これから私が患者として経てきた体験を申し上げたいと思います。12年前、地元のスーパーでいくつかの企業が製品のコマーシャルを積極的に行っているのを見て、企業と製品を信じて購入し、使うことになりました。加湿器殺菌剤を2007年から季節や時期を分けながら、レキットベンキーザー社の「オキシサクサク」という製品と、SKケミカルが原料物質を提供し、それを受けて作ったエギョンの「加湿器メイト」という製品を使用しました。

レキットベンキーザー社はイギリスの医療メーカーです。グローバル法人です。エギョンは韓国の生活必需品を作る大手のメーカーで、SKケミカルは韓国最大の化学会社であり、世界的なグループ会社です。加湿器殺菌剤の広告は使用上の注意よりも、どこにメリットがあるかというものが多くありました。「簡単な掃除と安全な物質で人体に害を及ぼしません」という製品のうたい文句は、多くの人の生命を失わせることとなりました。これらの言葉は全て嘘でした。

加湿器殺菌剤による症状

私は2007年から10年の間、二つの加湿器殺菌剤を使いました。そして2009年11月から発作的な咳が始まり、ひどい呼吸困難に陥りました。2009年12月に初めて病院に行った時は、肺機能の数値が低下し、生命に支障が生じる程でした。その時、私は応急処置を受けました。その後、多くの病を抱えることになりました。図２はその時の写真です。2010年には原因の分からない喘息。肝機能の数値が4,000を超える肝炎と透析直前の腎臓不全。40度を上回る高熱が続き、抗生物質、薬などで治療できず、モルヒネにのみ依存した状態でした。その後何回も入退院を繰り返しましたが、この病気の原因について、はっきりと説明してくれる医者はいませんでした。

10年間の間に私が経た病気の数々ですけれども、まず舌に良性腫瘍ができ、これを除去する手術を行いました。そして、肝臓の良性腫瘍を今、抱えています。胸腺腫瘍、重症喘息、重症の筋無力症、そして免疫関連の低ガンマグロブリン血症、そして副腎機能の低下、睡眠障害、そして摂食障害もあります。２年前からは肺機能が低下し、今は酸素発生器を持って、24時間生活しています。１日に多い時は11回薬を飲むということで、薬の後遺症に悩まされました。「なぜなんだ」医者たちは言いました。「この患者だけなぜ治療がきかないんだ。」患者の治療が大変で良くならないことに疑問を持ちながら、「本当に変な患者だ」というふうに言いました。

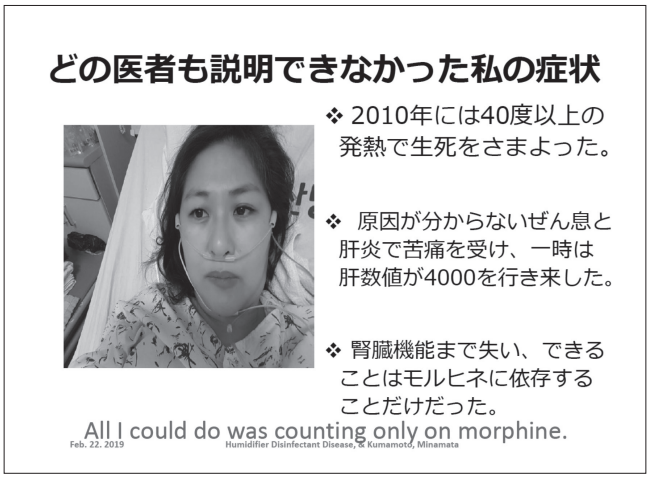

図２　闘病中のチョ スンミさん

韓国政府が動いた

このように闘病生活をしていく中で韓国政府に変化があったことについてお話します。2011年に韓国政府は「加湿器殺菌剤が妊婦と小児に害がある可能性がある」と発表しました。政府は、肺線維症患者についてのみ調査をしました。そして、加湿器殺菌剤の健康被害は肺線維症ということで、私の病気について政府は関係ないと判断しました。私は疑問を持つほかありませんでしたが、受け入れられませんでした。私だけでなく、多くの被害者が家族のために買った加湿器殺菌剤で健康を害したので、罪悪感と悲しみの両方を持っています。表に出てこない患者の話をします。

2017年の８月に、ムン ジェイン大統領が被害者らを青瓦台、大統領府に招いて慰労をしました。これが当時の私の姿です。この時のニュース報道の内容ですが、政府は「販売された製品の量を考えた時、潜在的被害者が今後一層増えるであろう」と言いました。ムン大統領は「政府は遅ればせながらも最善を尽くし、被害者の痛みを共にする」と述べました。このことは、「使われた加湿器殺菌剤の量に比べて表面に出てきている患者の数が少ない」という説明なのですが、2018年８月末までに政府に加湿器殺菌剤の被害を届け出た人は6,138人にのぼります。この中で、亡くなった方、死亡者は1,340人です。昨年９月には、香港で開かれた環境を考えるフォーラムで、本日も参加している韓国政府の特別調査委員会副委員長のチェ イェヨンさんと共にデモンストレーションをしました（図３）。加湿器殺菌剤を使用したにも関わらず、消費量に比べれば、潜在しており、みつけることのできない被害者が多いのが現状です。

Dr. Choi and Cho victim by
Hong Kong Demonstration ,
2018

図３　香港での抗議活動を行うチョ スンミさんとチェ イェヨンさん

被害の解決のために必要なことは

問題解決のために私達に何が必要か考えてみなければなりません。私達の損害を補償するために強力な法律とシステムが必要です。全ての市民の安全のために医療システムを改善しなければなりません。福祉は被害者救済のため、公正に進められなければなりません。悔しい死がないように、所得に基づき十分に賠償がなされなければなりません。たとえば、イギリスの新聞で報道されましたが、韓国からカンさんという被害者の娘が、英国レキットベンキーザー社の本社の前で、本社関係者が出てきたら話をしよう、と思って待っていたのですけれども、最後まで出てくることはなく会えませんでした。全世界で加湿器殺菌剤や、日用品に有害な化学物質が使われており、いつでも災害が起きる可能性があります。特に家庭用スプレーに危険な物質が含まれているということがありますので、注意をしなければなりません。新たな犠牲者にならないように、化学物質を使わないように知らせねばなりません。私は2018年、西ヨーロッパ５か国を回り、加湿器殺菌剤の被害を、韓国で起こっている事を知らせました。世界にはまだ心の温かい人がいる、ということを実感しました。犠牲者の苦痛は、私達が互いに慰め合わなければいけないと思います。企業が社会的犯罪を犯さないために懲罰的損害賠償の金額を高めなければいけません。それは企業が、より慎重に事業を行うためでもあります。医療サービスも、より公正に、富める者は社会的責任を行うべきだと希望します。

この写真は毎年８月に開かれる被害者の日、亡くなった方達を追悼する追悼行事の写真です。

今まで私の話を聞いて下さり、ありがとうございました。このような素晴らしい場で同じ環境被害の者同士が出会える、というよい集まりに参加できて光栄です。忘れないで下さい、加湿器殺菌剤の惨事を。永遠に忘れません。ということで世界の人達と共有していきたいと思います。